

『おおいしだめとんとむがすあつたけど』⑧

つるこ 鶴子さま

むかしむかし、里の部落さ写作というまじぎをしている兄にやいたけど。毎日、山さ行って、まじだのうまじだのへめてきては、部落の中で病氣して体弱っている人や、年寄りで体弱っている人や、お産したあとの人などさ、

「これ食ってえぐなれなあ。」

って肉食せるんだけど。ほして丈夫になつた人から、

「おかげで丈夫になつた。ありがとさん。」

つてお札に米や大根、じゃがいもなど季節のものをもらつて、不自由なく暮らしていたんだだけ。

ある日のこと、今日もきつねでも取つて、うまい肉を村の人さ食へつたいなあと思つて、朝早く山さ出がげで行つたけど。んでも、その日はうまじぎ一匹いねけど。今日はなんにもえねず、家さ帰つべどしたら、ガオーガオーって鳴く声した。空見たら、鶴の親子二羽飛んでいだけ。写作は弓矢は力いっぱい引いだけ。ほしたえ子鶴が写作の足元さバダバダと落つてきたけど。手に持つてみたら、あつたかくて、姿かたちもなんともきれいだけど。これは殿様に献上したら、なんと喜ばつて褒美もらえらんねべがと思つた。

お城さ行くんだがらと、写作は手足洗うべど、たらいに水いっばい入れだ。ほして、たらいの中の水見たら、鶴が羽いっばい広げて写作の頭の上をぐるぐるまわつていたのが写つてたけど。ほしていきなり写作めがけて向かつてきた。写作はたまげでとつさに足でたらいをけとばし、自分もよけた。鶴の口ばしは地面にささり、死んでしまつた。

写作はおれは何とてことをしてすまたんだ。子鶴の死をいんで親鶴が俺に向かつてきたんだ。人間も鶴も子どもを思ふ親の気持ちは同じだ。おら、今日限りまたまじぎをやめて、

物も食わねで、がおていだけ。

それを見たとなりのずんつあが、

「写作、んだてお前はまたまじぎして、うまじぎやまじの肉でなんば人ば助けたがわがなんいべ。お前の気持ちもわかる。んだら鶴のお墓建てて供養したらどうだ。沖のおもてあたりは、よく鳥や鶴が遊んでる。景色もいいところだし、いいんねが。」

て言つた。写作は氣をとりなしておして鶴の親子をそこさ埋めて、川からきれいな石をひろつてきて祠つくつて祀つた。写作は近くの畑で野菜を作り、初物は必ず鶴にあげてから自分が食つた。花もいっばい咲かせてあげた。

今も鶴子さまは地域の人たちに大事に祀られているんだ。

どんびん すかんこ さるまなぐ

○出典『大石田のとんとむがす』

(大石田とんとむがすの会編集・発行、二〇一九年)

今回のお話も、大石田とんとむがすの会の『大石田のとんとむがす』からのお話です。小中学校や町内会などで昔語りの活動を行っている同会が、結成十周年を記念して二〇一九年三月に作成したもので、二年の歳月をかけて町内の方々からの聞き取りや、資料の収集などを通して集めた民話や伝説、方言がまとめられています。一つ一つのお話や言葉から、長い歴史の中で生み出されてきた大石田の自然や歴史、信仰的なものを感じることができ、新たな発見があります。

町立図書館や町内の各小中学校図書館などに所蔵しています。ぜひお手に取つてご覧ください。



町の人口 令和2年3月1日現在

世帯数	2,347 戸	(+1)
総人口	6,910 人	(-11)
男	3,391 人	(-3)
女	3,519 人	(-8)

(2月中の異動)

出生	3 人	転入	5 人
死亡	10 人	転出	9 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

楽がき帳

2月号は記録的な少雪で雪に関する行事がほとんどなく、3月に入ると新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな行事が中止となり、ニュース玉手箱で紹介した行事はすべて2月に開催されたもの。広報担当者としても早期の収束を願うばかりです。

そんなわけで最近では休日に取材に出かけることがなく、かといって有意義に休日をごすごすでもなく、自宅でゴロゴロしています。普段読書家でもないのですが、町立図書館の貸出冊数と期間が拡大されているのでさっそく何冊か借りてきました。そのうち1冊は以前、借りるだけ借りて1ページも読んでいません。今回も今のところ似たような状態ですが、まだまだ期間はあるのでしっかりと読み切りたいと思つています。

(あ)